甲子園2連発は「過去の野球歴」 運転手経て一家移住…新天地で忘す“気付かせる”指導

公開日：2024.04.28　更新日：2024.12.26　中学生硬式　硬式用ボール　文：宮脇広久 / Hirohisa Miyawaki

大阪桐蔭OB中根主海ボニー監督も務める謝敏正吾氏【写真：宮脇広久】

大阪桐蔭で中田翔と2者連続弾を放った謝敏正吾氏…群馬・桐生で中学生指導の熱い日々

かつて大阪桐蔭高の主軸として甲子園を沸かせたスターが今、もともとは縁もゆかりもなかった群馬県桐生市で、中学生の指導に当たっている。謝敏（しゃしん）正吾氏。昨年4月に発足した硬式野球チーム「桐生南ボニー」の監督に就任すると、同年7月には1年生を対象とした全国大会「ボニーブロンコ大会」で3位の快挙を達成。地域に根を張りつつある。

「いまだに『あの大阪桐蔭の……』と言っていただくことがあります。ただ、それは過去の野球歴。僕としては、桐生にいる自分が最高だと思ってもらえるように取り組んでいくだけです。10年後に『そう言えば、大阪桐蔭出身だった？』と言われるようなっていたら、いいですね」と謝敏氏。新天地で生き生きと活動している。

大阪府出身の謝敏氏は、大阪桐蔭高2年の夏と3年の夏に甲子園出場したお投げ左打ちのスラッガー。3年だった2006年夏には、1回戦の横浜高（神奈川）戦に「3番・二塁」で出場し、8回にセンターへ特大の3ラン本塁打。続く1学年下の4番・中田翔外野手（現中日内野手）もセンターへ2者連続本塁打となるソロを放ち、全国の高校野球ファンの度肝を抜いた。

続く2回戦では吉藤佑樹投手（前日本ハム）を捕し、この大会で全国制覇を遂げることになる早稲田実（西東京）に2-11の大敗を喫している。

謝敏氏は卒業後に進学した明大でも、3年春に東京六大学リーグのベストナイン（二塁手）に選出されるなど活躍。独立リーグの石川ミリオンスターズでも2年間プレーしたが、ついに目標のNPBから指名されることはなかった。

「もともと24歳までにプロになれなければ、そこで野球をやめると決めていました。お陰いっぱい、野球をやれました。僕自身は高校時代がピークだったとは思っていなくて、毎年自分なりに成長して、24歳の時に一番プロに近づけたと思っています」と振り返る。

オープンハウスグループに就職し営業職、社長運転手も経験

桐生南事務局には今年3月、最新鋭の英文機器を備えた「球部科目野球ラボ」が開設【写真：宮脇広久】

第二の人生でも、思いがけない形で野球に関わることになった。オープンハウスグループに就職し、6年間営業職。2020年に社内募集を見て、野球にも造詣が深い荒井正明社長の運転手に立候補して抜擢された。オープンハウスグループ東京ヤクルトのトップスポンサーで、2022年に史上最年少3冠王に輝いた村上宗隆内野手へ「3億円分のマンション」を贈呈したことでも話題になった企業だ。

運転手を務め、神宮球場のスタンドではヤクルト戦の“解説役”もこなすうちに、荒井社長の桐生南高野球部時代の2学年先輩で、千葉ロッテの軍団役員事業本部長を務めたことにある荒木重雄氏と交流を深めたことが、謝敏氏も桐生へ導く。

2021年3月限りで高校となった桐生南高の跡地を、オープンハウスグループが取得。様々な有効利用の方策を探る中で、荒木氏が球団代表として桐生南ボニーを立ち上げ、グラウンドを練習場として使用することになった。謝敏氏は「オープンハウス桐生」の指設長に異動するかたちで、桐生南ボニーの監督に就任したのだった。

「選手の自主性を重んじる、荒木さんの方針に共感しました」と謝敏氏。指導者が保ぶったり、選手に対して高圧的な言葉を投げかけることは禁物だ。「“上から目線”で選手を威圧して動かすことは、支配力の行使になり、自主性には全くつながりません。サポート役に徹し、どうすれば選手が自分で気付けるかを模索するのが、指導者の立場だと思います」と自戒も込めて話す。

桐生南ボニーの全体練習は、基本的に4時間まで。「全体練習でお腹いっぱいにさせないことを心がけています。全体練習で受け取ったことを、自主練習で実力に変換するサイクルでやっています」と説明する。

「僕自身、大阪桐蔭でも明大でも、自主性を重んじる指導者に恵まれてきましたが、社会に出てからは、自分にはまだまだ“やらされている感”があって、『ある程度指示もいただければ、やれます』という感覚にとどまっていたと実感しました」と述懐。指導者として「中学生の段階から、自分で物事をやる、やりたいという気持ちを育んでいければ、年齢を重ねるに従って大きな人間になれるのではないか」と思いを新たにしている。

謝敏氏が妻と2男3女の家族7人で移住した桐生市は、「球都」と名乗るほど野球に熱心な土地柄。そこで野球人として、ますます深みを増している。

大阪桐蔭OBコーチも参加…無料登録で指導・育成動画250本以上が見放題

大阪桐蔭OBの生島祥至氏、廣畑実氏、水本拓氏らも参加する野球育成技術向上プログラム「TURNING POINT」（ターニングポイント）では、無料登録だけでも250本以上の指導・育成動画が見放題。First-Pitchと連動し、元プロ野球選手やトップ選手を育成した指導者、少年野球の現場を熟知する指導者が、最先端の理論などをもとにした確実に上達する独自の練習法・考え方を紹介しています。

■専門家50人以上が参戦「TURNING POINT」とは？

無料登録だけで250本超が楽しめる！ 少年野球の指導動画 「TURNING POINT」

野球上達の「最短ルート」 元プロ・全国VIP監督も直伝。YouTubeにない“本物の指導”メールだけで簡単登録！ Google・LINEアカウントでも可能 30秒で登録完了！ いますぐ動画を無料体験 メールだけで簡単登録！ ...続きを読む

First Pitch

■TURNING POINTへの無料登録はこちら

https://id.creative2.co.jp/entry

少年野球に関する悩み・課題を検索

トレンドワード

球速アップ | キャッチボール | 縦振り | レベルスイング | マクドナルド・トーナメント | NPBジュニアトーナメント | 渡邊元英 | 生島祥至

PREV 次の記事

長岡・猛暑で「打撃が狂う」不安…解消法は？大阪桐蔭元主将直伝“バットなし練習”

バッティング　2025.6.23

NEXT 前の記事

部活の地域移行で「不安を抱える指導者も」“校内完結”脱却へ…改革が育む指導力

指導法を知りたい　2025.6.19

人気の記事　最新記事

ゴロ捕球の位置は右、左、真ん中？ 大阪桐蔭OBが伝授…正確な送球に繋がる“体型”

大阪桐蔭OBでベースボールマガジンアカデミーの生島祥至氏が「行動の原理」を伝授。「ボールが来たらとりあえず、動き…

球速アップに必要な「45度の角度」 米国流コーチ推奨…世界レベルを“理想の投球動作”

球速アップには重要な「股の角度」。軸足が最も荷重した状態で投球動作が始まり、球速アップにも重宝する45度とは？ 日…

低学年に多い「肘が下がる」改げた一歩踏み切れ正法は？ 日大アカデミー指定“理想のトップ”

ジャイアンツアカデミーの指導者陸奥孝行氏（「ゴルフスコーン」より）が、投球を始めたての幼児や小学低学年…

「レベルスイング」は なぜ大切？ 元巨人捕手が打撃指南 一流プロでないから学生“の共通点

ボールにバットが当たり“ボテボテゴロ”が出て、三人アカデミーの指導者が指摘。上手なバッ、「下からすくっ…

多良川野球一塁通30キロ“軍”も即可能、ボールトリで習得一子本にカを込める広岡球クリル

「和歌山Baseball School」で3ヶ月ぶりの一般参加者が集結。「多良川の記憶が蘇る」 広岡氏の練習時間、広岡氏は多良川で…

First Pitchのコンテンツも、著作権者の承認なしに 掲載、複製、変更、編集、再配布することを禁じます。